

家庭、技術・家庭

令和6年度 授業改善のポイント

- 1 児童生徒が身に付けた資質・能力を実生活で活用できるよう、児童生徒の実態を考慮した上で、家庭等と連携を図りながら、問題解決的な学習過程を踏まえた題材を設定する。
- 2 各題材の導入段階において、その題材の学習に関わる生活場面を個々に振り返らせながら問題を見だし、課題を設定する学習活動の充実を図る。

生活の中から問題を見だし、課題を設定するための指導の充実

【指導事例】「家族との触れ合い・団らん大作戦」(小学校第5学年) [A(3)ア(ア)イ]

生活の中から問題を見だし、課題を設定する上で、問題〔困りごとやその原因など〕と課題〔問題を解決するために追究(実践)することなど〕を区別して取り組ませることが大切です。その際、児童生徒が、見出した問題を分析して解決すべき事柄を明らかにし、意見交流等を通して多様な視点に触れながら、自分の家庭等に合った、実践可能な課題を設定できるようにします。

時	題材計画(4時間)	児童による主な活動/場面等	指導上の留意点等
	[事前活動①] ・家族と一緒に過ごした時間調べ ・家族団らんに関する実態(意識)アンケート	＜分類・整理の例＞ ○家族への関わり方について、自身の生活を見つめ、個々に想起した現状の問題点をグループで共有して状況別に分類・整理する。 ○共有したことを基に生活の営みに係る見方・考え方に示される「協力」等の視点を踏まえ、優先したいことを絞り込む。	重要 児童や各家庭の状況に十分配慮した上で、実態調査の内容や提示方法等に留意する必要があります。
1	家族との触れ合いや団らんの大切さについて知る。(0.5) 家族との触れ合いや団らんについて問題を見いだす。(0.5)	ICT 分類・整理して共有する際、学習支援ツールのホワイトボード機能やデジタル付箋機能を利用することで、全体の傾向も把握できます。	
	[事前活動②] ・個々にICTを活用して課題設定シートに優先する問題等を入力	自分から家族と関わる時間をもつには、どうすればいいのだろう。休日の昼食後だったら、家族が家にいることが多いなあ。	
2	家族との触れ合いや団らんについて見いだした問題を踏まえて、実践可能な課題を設定する。	○児童一人一人が、事前に記入できる範囲でまとめた課題設定シートを全体で共有する。 ＜個々に記入した課題設定シートの例＞	ICT 事前に提出された課題設定シートを、教師が問題別に色分けして全体で共有することで、類似した課題の児童同士でグループを構成することができます。
	[課外活動①] ・実践計画の立案に向けた家族インタビュー等		重要 課題設定シート等で考えを可視化しながら、相互のやり取りも生かして、自分が実践可能な課題を設定できるようにします。
3	課題解決に向けた実践計画を立てる。	○グループ内で発表し、互いに相談するなどして、課題設定に向けた意見交流をする。 ＜グループ内における意見交流の例＞ 家族にお茶を入れてあげることはできるけど、団らんのときの話題が思い付かないな。	
	[課外活動②(実践)] ・家庭等における実践	家庭科で習った日本茶の入れ方などを話題にしてみたら。 お茶に合うお菓子があれば、もっと話はずむと思うよ。	
4	実践したことを振り返って評価するとともに、改善できることについて考え、家庭等における次の実践に生かす。	それいいね！ おばあちゃんと一緒に白玉だんごを作ろうかな。 ○参考にした点等を全体で共有し、それらを基にして、自分が家庭等で取り組む課題を再構成する。 私が中心になってお茶会を開き、日本茶の入れ方のことなどを話題にしながら家族との団らんの時間をもとう。	